

知的障害特別支援学校高等部における LGBTへの理解促進の取り組み

要旨

本研究では、知的障害特別支援学校高等部において、これまで実践報告例のない性的少数者（以下、LGBT）に対する理解を促進するために、LGBTに対する「嫌悪」を覚えないように配慮しながら実践を行った。なお授業プログラムは、当事者のAさんをゲストティーチャーとして招いて講話をしてもらうだけでなく、「自分らしく生きることの大切さ」「人のことを思いやる態度」「偏見や差別意識をもたない」「困っている人を気遣う態度」の4つの観点を踏まえながら作成した。その結果、生徒たちはLGBTに対して「嫌悪」を覚えることなく、LGBTについて学ぶことができた。さらに、当事者からの説明や体験談を行うてもらっただけでなく、当事者として困っていることや接し方についての気持ちを生徒たちに伝えることが、より効果があることが明らかとなった。

1. 実施期間とグループ編成

2023年12月5日の道徳の授業にて、習熟度別7名でグループ編成された学習グループにて実践を行った。

2. 授業実践

(1) ねらい

特別支援学校高等部学習指導要領における特別の教科 道徳「主として人との関わりに関すること」をもとに、当事者のAさんをゲストティーチャーとして招いて、「当事者のAさんが生徒たちから偏見や差別意識をなく、一人の人として、接すること」を学習のねらいとした。

(2) 内容

今回の実践では、今まで「道徳」で取り組んできたことも考慮しながら、実践に取り組む前に担当教員とゲストティーチャーのAさんを交えて意見交換を数回行った。その意見交換から、岩崎ら（2022）の研究を踏まえて「高等部の生徒たちにわかしてもらいたいこと」として、LGBTについて知るだけでなく「自分らしく生きることの大切さ(A)」「人のことを思いやる態度(B)」「偏見や差別意識をもたない(C)」「困っている人を気遣う態度(D)」の4項目を抽出し、実践を行うにあたって共通理解を図った。

(3) 展開

展開1: ワーク「これは男の子? 女の子?」を行った。「ヒゲが生えている人」や「スカートをはいている人」、「ピンク色が好きな人」等のカードを「男の子」と「女の子」のいずれかを選んで置くという活動を行った。(A、B、C)

展開2: 「LGBTって聞いたことがありますか?」という問いを生徒たちに行った。その後、Aさんが「私もLGBTの一人です」と生徒たちに伝え、「私は自分のことを、男でも女でもないと思っています」「好きになる相手もいません」と自分の思っていることを素直に伝えた。(A、B、C)

展開3: 「困っていること」と題して、男女それぞれ入口があるトイレと、男女それぞれ入口がある銭湯の脱衣室の写真を映し出して、「どちらにも入りたくない」という気持ちを伝えた。(B、C、D)

展開4: 「LGBTでも、そうでなくても、いろんな生き方をしている人がいること」を、イラストを用いて女性同士や男性同士の同性婚のことや、女子高生が制服のスカートではなく制服のズボンを選んで穿いていることを説明した。(A、B、C)

展開5: 展開4で説明した人たちに向かって『「おかしいよ」「きもちわるい」なんて言われたら誰でも悲しくなります』と、展開4で説明した人たちだけでなく、言われたすべての人が悲しい気持ちになるだけでなく、「その人の生き方を否定している」ことを伝えた。そして、「自分は困っていなかったり悩んでいなくても、誰かが困っていたり悩んでいることもあります」と自分が困ったり悩んでいないことでも、まわりの人たちは困ったり悩んだりすることもあることを伝えた。(B、C、D)

まとめ: 「性別で困っている人に、あなたは、どうしてあげられそうですか?」と問いかけ、Aさんが生徒たちに「私は、他の人と同じように接してもらえるとうれしいです。」と伝えた。(B、D)

振り返り: 導入からまとめまでをAさんに行ってもらい、その後、授業者が生徒たちと展開1～まとめまでの振り返りを行いながら、生徒たちの疑問に思ったことや授業者が確認するような質問を行ったりした。(A、B、C、D)

3. 授業前後の生徒へのアンケート結果

質問1 世の中には、差別をされても仕方がない人がいると思う。 ①思わない・②どちらともいえない・③思う	質問7 女性が男性のようにふるまうことを、理解できない。 ①理解できる・②どちらともいえない・③理解できない
質問2 人としての価値が低い人は存在する。 ①思わない・②どちらともいえない・③思う	質問8 女性のようにふるまう男性は、自分を恥ずかしいと思うべきだ。 ①思うべきではない・②どちらともいえない・③思うべきだ
質問3 つい、馬鹿にしたくなる人がいる。 ①いない・②どちらともいえない・③いる	質問9 自分のことを男性だと思ふ女性は、おかしいと思う。 ①おかしくないと思ふ・②どちらともいえない・③おかしいと思ふ
質問4 自分と考えが異なる意見を理解するように努めている。 ①理解しようとしている・②どちらともいえない・③理解しようとしていない	質問10 女性のような服装をした男性なんて気持ち悪い。 ①気持ち悪くない・②どちらともいえない・③気持ち悪い
質問5 自分と異なる相手を受け入れることができる。 ①できる・②どちらともいえない・③できない	質問11 「男の子は男らしく、女の子は女らしく」という考えは、良いことだと思う。 ①良いことではないと思ふ・②どちらともいえない・③良いことだと思う
質問6 人の考えや気持ちを積極的に理解しようと思う。 ①思う・②どちらともいえない・③思わない	

図1 生徒へのアンケート項目

表1 授業前後の生徒の意識の変容

	授業前			授業後		
	①	②	③	①	②	③
質問1	4名	2名	1名	4名	2名	1名
質問2	3名	4名	0名	5名	2名	0名
質問3	4名	3名	0名	6名	1名	0名
質問4	6名	1名	0名	7名	0名	0名
質問5	7名	0名	0名	6名	1名	0名
質問6	5名	2名	0名	4名	3名	0名
質問7	2名	4名	1名	5名	2名	0名
質問8	2名	4名	1名	3名	3名	1名
質問9	3名	2名	2名	5名	2名	0名
質問10	1名	5名	1名	2名	4名	1名
質問11	4名	1名	2名	4名	1名	2名

4. まとめ及び今後の課題

本研究では、知的障害特別支援学校高等部でのLGBTへの理解促進を行うための実践例を示すことができただけでなく、生徒たちが「嫌悪」を示さずに授業に参加できた実践例も示すことができた。そして、知的障害特別支援学校高等部における授業プログラムを開発するにあたり、当事者の方を招聘し、LGBTについて説明を行ったり、体験談を話していただいたりするのではなく、当事者として困っていることや接し方についての気持ちを伝えることが、より効果があることが明らかとなった。さらに、「自分らしく生きることの大切さ」「人のことを思いやる態度」「偏見や差別意識をもたない」「困っている人を気遣う態度」の4つの観点を踏まえて授業プログラムを作成することにより、「嫌悪」を覚えずに授業を終えることができた。しかし、生徒たちにとって身近な事例や出来事、習慣などを取り上げながら、プログラムを構成することの必要性が示唆された。

今後の課題としては、今回は特別な教科「道徳」において実践を行ったが、知的障害特別支援学校高等部において、身近な事例や出来事、習慣などを踏まえた授業プログラムを開発していくためには、他教科とも連携したプログラム開発を検討していく重要である。

5. 謝辞

今回の実践を行うにあたり、ゲストティーチャーとして参加してくださったAさんと授業を受けてくれた高等部の生徒の皆さんに心から感謝を申し上げます。最後に本研究は、2023(令和5)年度 大阪教育大学ダイバーシティ推進事業を採択して実施させていただきました。ここに記して感謝を申し上げます。